

2025 年度夏の三者総会 議案書

令和 7 年 8 月 7 日 (木) 開催

本議案書は、令和 7 年 8 月 7 日 (木) 開催の、2025 年度夏の三者総会に提出されたものである。

目次

1	2025 年度予算案	1
1.1	収入予定 (概算)	1
1.2	支出予定	1
2	来年度の開催形態について	3
2.1	はじめに	3
2.2	ここ数年の会場と今年度の問題	3
2.3	開催形態案	4
2.4	まとめ	6
3	今後のキャリアフォーラム開催についての議案	6
3.1	議案とその経緯	7
3.2	キャリアフォーラム開催形式案	7
3.3	各案のメリット・デメリット	7
4	事務局校・企画校の選定方法についての提案	8
4.1	議案の概要	8
4.2	議案提出の背景	8
4.3	議案の目的	8
4.4	具体案	8
4.5	予想される質問とそれに対する回答	9
5	2026 年度役職校一覧	9

1 2025 年度予算案

2025 年 7 月 28 日

文責：繁村知宏 (京都大学)

1.1 収入予定 (概算)

- (1) 前年度繰越金 (2024 年度決算終了時の繰越金額を記載) : ¥818,426
- (2) 参加費 : ¥4,000 × 321 = ¥1,284,000
- (3) 外部団体への援助・協賛申請 (内訳は下表) : ¥887,552

団体名	内容	今年度申請額
素粒子論グループ	旅費補助	450,000
基研	講師等旅費	437,552
RCNP	協賛	0
KEK	協賛	0
高エネルギー研究者会議	協賛, 原子核研究出版費	出版費
申請額合計		887,552

収入合計 : (1) + (2) + (3) = ¥2,989,978

1.2 支出予定

各役職校からの予算申請を元に作成、内訳は次節以降に記載。

- (1) 旅費補助 : ¥1,299,860
- (2) 各役職校支出 : ¥621,606

役職名	今年度予算案	前年度決算額 *1
三者センター校	5,300	355,715
三者事務局校	0	0
三者準備校	578,512	65,342
三者企画校	10,974	13,554
素粒子論パート準備校	9,220	7,060
素粒子論パート講義録校	0	0
原子核パート校	17,600	4,660
計	621,606	446,331

- (3) 次年度繰越金 : ¥1,068,512

*1 前年度決算は 2024 年度三者センター校の決算報告に基づいている。

(注.) 前年度決算では会場使用料を三者センター校の予算として計上したが、今年度は三者準備校の予算として計上している。

支出合計 : (1) + (2) + (3) = ¥2,989,978

1.2.1 各三者役職校の支出予定項目

- 三者センター校 (京都大学)

申請項目	申請額
振込手数料	5,300
計	5,300

振込手数料：旅費補助の振り込み手数料 (2024 年度予算案をもとに算出)

- 三者準備校 (東京大学)

申請項目	申請額
施設使用料	485,512
コピー代	20,000
備品送料	5,000
会場下見代	5,000
郵送費	25,000
消耗品代	5,000
機材費	33,000
計	578,512

施設使用料: 国立オリンピック記念青少年総合センターを 8/6~8/10 の間、使用。

コピー代: ポスターや参加受付の際に配布する資料等の印刷費 (2023 年度予算案をもとに算出)

備品送料: 次年度準備校への備品運搬費。(2023 年度予算案をもとに算出。)

会場下見代: 会場下見にかかる交通費。(東大駒場・東工大を準備校として代々木で開催された 2017 年度の予算案をもとに算出。)

郵送費: 各大学へのポスター郵送費。(2023 年度予算案をもとに算出。)

消耗品代: 運営に必要な文具、およびポスター送付にかかる封筒などの物品購入費。(2023 年度予算案をもとに算出。)

機材費: 現地での WiFi ルーターとカメラ (2 台) のレンタル代。(2023 年度予算案をもとに算出)

- 三者企画校 (茨城大学)

申請項目	申請額
優秀発表賞 賞状 (A4) 印刷 (計 12 枚)	6,534
賞状郵送 (レターパックライト)	4,440
計	10,974

1.2.2 各パート役職校の支出予定項目

- 素粒子論パート準備校 (東京科学大学)

申請項目	申請額
機材運送費	7,440
32GB SD カード (3 枚)	1,780
計	9,220

- 原子核パート準備校 (筑波大学・大阪大学)

申請項目	申請額
レーザーポインタ	14,600
スマートフォン用三脚	3,000
計	17,600

2 来年度の開催形態について

2025 年 8 月 7 日

文責：神田大樹 (京都大学基礎物理学研究所)

2.1 はじめに

ここ数年、原子核三者若手夏の学校 (以降、夏の学校) の開催地は国立オリンピック記念青少年総合センター (以降、オリンピックセンター) に一本化されておりました。本議案では、後に記す諸問題により開催形態の変更を提案します。

2.2 ここ数年の会場と今年度の問題

コロナが明けまして、一昨年から今年まで夏の学校の開催場所はオリンピックセンターで統一されておりました。2019 年度夏の三者総会で 2018 年度事務局校代表の畠山氏により「会場の固定」が提案され、2024 年度秋の三者総会 (2023 年開催) で固定先がオリンピックセンターに固定されたことが主な理由になります。また、この秋の総会で会場を変更する際は、三者総会で議案提出をすることが決定いたしました。

しかしながら、2024 年度の参加者アンケートの結果では開催形態についての質問では、表 1 にある通り、開催形態を合宿形式に移したいと考えている参加者が多くなっていました。また、懇親会も新宿のレストランなどを会場にするため、会場があまり広くなく、懇親会の参加に抽選が必要となっておりました。今年度は希望者 200 名中当選者は 110 名でした。

選択肢	割合 (%)
良かったので今後も続けてほしい	26.5
合宿形式が良い	37.7
どちらでもよい	31.8
その他	4.0

表 1 宿泊施設について (2024 年度参加者アンケート)

さて、今年度 (2025 年度) も 2023 年の決定に従い、会場をオリンピックセンターにいたしました。しかしながら、夏の学校の参加登録が終わり、参加予定人数が確定いたしますと、大きな問題があることが発覚いたしました。

オリンピックセンターにある最大収容人数の部屋は三者総会等を行う 417 で、こちらは収容人数が 300 名の部屋となっております。しかしながら、今年度の参加予定人数が 323 名とオリンピックセンターのキャパシティを超過しまして、来年度も同じ形態で進めることが物理的に難しくなっていました。そのため、来年度以降は新しい開催形態を考える必要があり、提案をしました。

2.3 開催形態案

来年度の開催形態案として三つの案を提出します。

2.3.1 今年度と同様の開催形態

今後も同様の開催形態のまま続けるとなると、方法は三つ考えられます。

- A-1 より大きなオリンピックセンターのような MICE 会場を探す。現在、この案の候補先として Plaza Verde(JR 沼津駅すぐ)を考えております。ここは、弁当の手配やケータリングが可能(表 2)なので、懇親会に制限をかけずに済みます。宿の確保は各自になってしまいますが、JR 沼津駅から徒歩 10 分圏内に多数ホテルがあり、合計で約 2 千名の宿泊が可能ということです(図 1)。また、JR 三島駅(新幹線停車駅)から一駅(6 分)という利便性もあります。

	概要	単価(税込み)
昼食代	弁当・外注手配	¥8,00 ~ ¥1,800
ケータリング代	plan-C	¥5,500
コンベンションホール A-1	336 名着席可(9:00~22:00)	¥92,500
コンベンションホール B	252 名着席可(9:00~22:00)	¥98,700
会議室 301+302(連結)	180 名着席可(9:00~22:00)	¥62,800

表 2 Plaza Verde の一日あたりの費用(HP より抜粋)



図 1 沼津駅周辺図。緑が Plaza Verde で青がホテル

- A-2 オリンピックセンターのまま、現地参加人数の上限を決め、zoom での参加枠を設ける。(ハイブリッド形式)
- A-3 オリンピックセンターのまま、共通講義等は部屋を zoom でつなぐ。

2.3.2 350 名程度が入る会場のあるホテルで開催する (B 案)

過去に夏の学校を開催したホテルでは 300 名以上入る会場がありませんでした。そのため、来年も 300 名以上の参加者を全員参加させるためには、会場をより広いホテルにする必要があります。モデルケースとして、長野県にある圓山荘というところに見積もりを依頼しました (表 3)。圓山荘は 2025 年度の天文・天体物理若手夏の学校が開催された会場になります。天文夏の学校の 2025 年度の参加者は 312 人であり、三者夏の学校も開催可能なキャパシティを持っていると判断しました。

	概要	単価 (税込み)
宿泊費	1 泊 3 食 (4~6 人部屋)	¥15,400/1 人
	入湯料	¥150
会議室 1	350 名以上着席可能な大部屋	¥165,000
会議室 2	100 名用の会議室	¥88,000

表 3 圓山荘の一日あたりの費用 (見積書より抜粋)

メリットは参加者全員が参加でき、キャパシティの問題も解決できることが挙げられます。

デメリットはより広いホテルになるため、宿泊費や食事代が高額になり、また、旅費の補助希望者が増加することが想定されるので、十分に補助ができなくなる可能性があります。表 3 にあるように、一泊の食事代＋宿泊費＋入湯税は 15,550 円であり、基礎物理学研究所から M1 へ支給可能な一日の宿泊費＋日当は 10,000 円になります (表 5)。また、会議室 1 と 2 を 5 日間借りることを考えると、126 万円程度となり、かなり高額になります。参考までに、今年度のオリンピックセンターの施設代は 50 万円弱となっております。

天文夏の学校は対策として、参加者から参加費とは別に会場代として 3,000 円を徴収しておりました (単純に参加費が高くなると考えてください)。その分を差し引きますと、施設代は 30 万円程度とできます (参加者 320 名想定)。

(8/6 追記) 今年度の天文の方にメールで話を伺いまして、今年度の旅費補助額が 180 万円程度になったようです。(原子核三者若手の旅費補助額は 110 万強です) この大きな違いはスポンサーの有無になります。また、180 万円でも希望者全員に補助を満額出せたわけではなく、平均して 9 千円の自己負担はあったようです。原子核三者若手が同様に事を行う場合、それ以上の自己負担額が生じることが想定されます。

2.3.3 人数制限をかけてホテルで開催する (C 案)

この場合のモデルケースとしては「西浦温泉龍城」(愛知県)を考えております。実際に、2013 年度に 286 名での開催歴がありました。しかしながら、7 月に電話した際、稼働している部屋が減っているため 200 名から 250 名までしか受け入れができないと回答を受けました。また、立食パーティーを行う余裕もないとのことでした。C 案で行う場合は別の場所ももう少し検討いたします。

人数制限をかける方法としては、例えば、M2 以上の参加はポスターか口頭発表を必須にするなどを考えています。今年度をその基準で篩にかけますと 249 名となり、龍城が提示した人数に合致いたします。

この案のメリットは、宿泊費が高額にならないことがまず挙げられます。また、現地の制限をかけるという点では、A-2 案と変わりませんが、C 案は今年度の問題として提示したアンケートの結果を解決できるという利点もあります。

デメリットとしては、何らかの選抜を行うことになるため、素核の院生全員に平等な機会を与えることが困難になるという点があります。

	概要	単価 (税込み)
宿泊費	1泊2食 (定員利用)	¥9,900/1人
	入湯料	¥150
	昼食代 (弁当・外注手配)	¥1,100
会議室		¥1,100/1人

表4 龍城の一日あたりの費用 (見積書より抜粋)

	一日の費用 (宿泊費+食事代+etc)
基研支給可能額 (M1 用)	¥10,000
圓山荘	¥15,550
龍城	¥11,150

表5 各ホテルの参考費用と基研支給可能額の比較

2.4 まとめ

来年度の開催形態について案を三つ提出いたしました。本三者総会では、以上の案のうちどれで遂行するかを参加者の希望を聞き決定したいと考えています。

3 今後のキャリアフォーラム開催についての議案

2025年7月30日

文責：木戸 夏矢 (茨城大学)

山本 芳樹 (茨城大学)

3.1 議案とその経緯

キャリアフォーラムは2022年に行われた夏の学校から開催が始まった。2022年は新型コロナウイルスの影響で多くの研究会がオンライン開催となり、進路に関する情報を得る機会が減少したという背景があり、この問題を解消するためにキャリアに関する情報交換の場としてキャリアフォーラムが企画された。翌年以降のキャリアフォーラムについても、学位取得後の進路についての情報を得る機会の少なさを解消するためとして開催された。

しかし現在は行動規制はなくなり、夏の学校の対面開催が可能となった。これにより昨年度の夏の学校では参加希望者の発表時間が不足し、スケジュールが過密になってしまうという新たな問題が生じたため、キャリアフォーラムの開催を見直す必要があるのではないかという意見があった^{*1}。この意見を踏まえて役職校での議論やアンケートの結果^{*2}、今年度のキャリアフォーラム開催は見送ることとなった。

^{*1} 今年度のキャリアフォーラム担当予定だった岩中さんからのメール

^{*2} 2024年12月に行った。個人情報が含まれるため結果のみ以下に記述する:

- 『キャリアフォーラムを中止してその時間と場所は学生の交流に使用』4票
- 『キャリアフォーラムを縮小してその時間と場所は学生の交流に使用』2票
- 『キャリアフォーラムを縮小して(簡単な)ゴングショーを行うべき』1票
- 『キャリアフォーラムは中止すべきでない』3票

そこで本議案では、今後のキャリアフォーラム開催について再考し決定することを目的とする。以下、キャリアフォーラムの開催形式の案とそのメリット・デメリットをいくつか挙げる。

3.2 キャリアフォーラム開催形式案

- キャリアフォーラムを開催しない
- キャリアフォーラムを短縮して開催する。
- 昨年度と同様にキャリアフォーラムを開催する。

3.3 各案のメリット・デメリット

これまでのキャリアフォーラムでは夏の学校の OB・OG を招き、その方たちの経験を基にしたキャリアパスについての講演とパネルディスカッションや質疑応答を行ってきた。2 つ目の案での短縮開催はこれらのうちどちらかのみを行うということを想定しているが、これ以外の形式案があればそれについても検討する。

開催しない場合や短縮開催の場合は、研究発表や講義の時間の確保ができるようになる、もしくはゴングショーやグループセミナー等の学生間の交流の時間に充てることができるというメリットが考えられる。

一方で過去の議案書 [1] によるとキャリアフォーラムの開催後のアンケート結果は好評であり、開催の需要はあると考えられる。

これまで通りキャリアフォーラムを開催する場合は上の需要を満たせるようになる一方、参加者の発表時間の確保が必要になるためスケジュールが過密になる、発表希望者の発表形式（口頭発表、ポスター発表）が希望通りにならない可能性がある、パラレルセッションのための部屋数または夏の学校自体の開催日程数が増えるなどのデメリットが考えられる。

参考文献

[1] 2023 年度秋の三者総会議案書

https://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~sansha.wakate/document/2023autumn_gian.pdf

4 事務局校・企画校の選定方法についての提案

2025 年 6 月 24 日

文責：吉田伊吹（立命館大学）

4.1 議案の概要

次年度役職校の選定が難航している昨今の状況は、三者若手の持続的・安定的な運営に支障を来す恐れがある。そこで本議案では、有志を募ったり、個人へ依頼したりするなど、大学単位にこだわらない役職の担い手の選定を提案する。

4.2 議案提出の背景

現時点において、次年度の三者事務局校・企画校（以下、役職校）は事務局校が選定および交渉を行い、承諾を得た大学を次年度の役職校に決定することになっている。しかしながら、近年、研究室の在籍人数等を理

由に役職校を断る大学が後を絶たず、役職校の決定が困難となっている。仮に、選定条件を満たす全ての大学から役職校を断られた場合、ローテーション校へ役職を依頼せざるを得ない状況となる。実際に 2022 年度の素粒子パート校においてこのような状況が発生し、ローテーション校が役職を担当している。このような事態が頻繁に起きれば、ローテーション制を瓦解させかねず、ひいては三者若手の持続的な運営に支障をきたす恐れがある。そこで本義案では、有志の募集や、個人への依頼など、大学単位にこだわらない役職の担い手の選定を提案する。役職校の選定手法を多様化し、これを明文化することは、三者若手の安定的な運営を守る観点から意義のあることであると考える。

4.3 議案の目的

- 事務局校及び企画校をローテーション校へ依頼する状況を避ける。
- 選定条件を満たす大学全てから役職校を断られた際、同校へ繰り返し交渉を行うことによる選定作業の長期化を防ぐ。

4.4 具体案

事務局校は次のように、次年度事務局校を選定する。

- まずは例年通り選定条件（過去 3 年間役職を担当しておらず、来年度在籍人数が次の人数以上である。事務局校で 2 人、企画校で 4 人）を満たす大学へ役職校を依頼する。
- 上記全ての大学から役職校を断られた際には、YONUPA-ML や夏学への参加登録時に有志を募集したり、個人に依頼をしたりする。
- それでも人数が集まらないときは夏学当日の三者総会等で有志を募る。

4.5 予想される質問とそれに対する回答

Q1 有志では所属大学が異なることで連携が取りづらくなるのではないか。

A1 大学単位で役職を担当するよりも連携がとりづらいのは確かだが、そもそも事務局校と企画校は実働人数が 2、4 人程度と少ないため適切にコミュニケーションをとれば問題ない考える。

Q2 有志も集まらなかった場合はどのような対応をするのか。

A2 役職校の判断に一任する。（役職の担当があくまでも任意である以上、この問いには答えない。）

5 2026 年度役職校一覧

2026 年度三者若手役職校は以下の通り。

- センター校：大阪大学
- 準備校：北海道大学
- 事務局校：慶応義塾大学
- 企画校：千葉大学、総合研究大学院大学（KEK）